

1学年だより



西東京市立柳沢中学校

令和8年3月6日

No. 3 3

生命（いのち）は

吉野 弘

生命は

自分自身だけでは完結できないように
つくられているらしい

花も

めしべとおしべが揃（そろ）っているだけでは
不十分で

虫や風が訪れて

めしべとおしべを仲立ちする

生命は

その中に欠如（けつじょ）を抱き
それを他者から満たしてもらうのだ

欠如＝必要なものが欠けていること

世界は多分

他者の総和（そうわ）

しかし

互いに

欠如を満たすなどとは

知りもせず

知らされもせず

ばらまかれている者同士

無関心でいられる間柄

ときに

うとましく思うことさえも許されている間柄

そのように

世界がゆるやかに構成されているのは
なぜ？

総和＝全部を足したもの

花が咲いている

すぐ近くまで

虻（あぶ）の姿をした他者が

光をまとって飛んできている

私も あるとき 誰かのための虻だったろう

あなたも あるとき 私のための風だったかもしれない

詩集「風が吹くと」より

いうまでもなく花が実を結ぶためには、おしべの花粉がめしべの先端に付着して受精することが必要です。しかし、花によっては長いめしべの先端と、短いおしべとの間にはかなりのへだたりがあります。つまり、なぜか植物のつくりは最初から受精しにくいように仕組みられているということになります。そして、これはどうも進化した植物ほどこういう仕組みになっているらしいのです。

花が実を結ぶためには、その受精を助けるために花以外のものの力、例えばハチなどの昆虫や、風などの自然の力を借りなければならないという仕組みを知って、私は新鮮な驚きを覚えました。

他者なしでは完結することの不可能な生命。そしてお互いが、お互いにとって必要な他者である関係。まさしくこれは花と昆虫、花と風の関係だけではありません。この関係は実はそのまま人と人の関係と同じなのではないでしょうか。

つまり私はあるとき、ある人にとっての虻やハチや風であり、ある人のなにかを知らず知らずのうちに助けているのではないか。私は今日どこかの誰かが実するための虻だったのかもしれない。また、私の見知らぬ誰かや身近な誰かが、私という花の結実を助けてくれる虻やハチや風であるのではないか。もしかしたら、あの人が私にとっての虻なのかもしれない。お互いがいつかどこかで助け合いながら生きている。

私はこの話を知って新鮮な驚きとともに、何か心があたたかくなりました。人を殺したり、だましたり、裏切ったり、おとしめたり、人間の暗い部分ばかりが毎日ニュースで流れてきます。

でも、人間って本来もっと素晴らしいものではないだろうか。お互いを助け合い、支え合い、いたわり合いながら生きているのではないだろうか。

私はそれが人間の本来の力だと信じています。

あなたは 今日 どこかの花のための虻だったかもしれない
そして 明日は 誰かが あなたという花のための 虻であるかもしれない

□来週の予定

月/ 日(曜)	行事予定	備考
3/ 9 (月)	生徒会朝礼 校内作品展終	
3/10 (火)	あいさつ運動始	
3/11 (水)	講演会 研修会	
3/12 (木)	避難訓練	
3/13 (金)	あいさつ運動終	

